

1-6

主題 中学生ボランティアとの交流を通じて

ボランティア

副題 介護という職業って!?

地域交流

研究期間 24ヶ月

事業所 特別養護老人ホーム フローラ石神井公園

発表者: 繁田 雅裕 (しげた まさひろ)

アドバイザー: 渡邊 玲子 (わたなべ れいこ)

共同研究者:

電 話 03-3996-6600

メール soudanin@flora.or.jp

FAX 03-3996-5551

URL <http://www.flora.or.jp/>今回発表の
事業所や
サービスの
紹介

平成15年開設、90床の特別養護老人ホームです。福祉事業の多様化を受けて、地域の方々にどのようなサービスが提供できるのか、またどのようなサービスが求められているのか根本的に考え、福祉事業を行う法人として社会的な見地から、それぞれのニーズにあったより質の高いサービスを選定し、豊かな生活の礎を作るお手伝いをしていきます。

《研究前の状況と課題》

当施設では開設当初から近隣の中学校との交流を行っていたが、平成20年から学習活動をきっかけに授業の一貫としてではない活動として校長先生を筆頭に当施設のためのボランティアクラブを立ち上げていただいた。学校と施設側が今後の活動について、具体的に話し合いを行う。

- ・放課後のクラブ活動というボランティアの受入れをどのように設定するか
- ・お客様との関わりをどのように設定していくか
- ・気軽に立ち寄れるような施設づくり
- ・開かれた施設作り
- ・お客様の地域交流を通じての生活の活性化
- ・

《研究の目標と期待する成果》

- ・核家族化が進み、高齢者と生活する機会のあまりない現在、来所することで高齢者の理解を深めてもらう。
- ・世代を越えた地域交流を通じ互いに理解する。
- ・殺伐とした現代社会にゆったりした時間の流れ、和らいだ雰囲気を感じてもらう。介護という職業を体験して、将来の職業選択肢の1つに選ばれるよう期待する。

《具体的な取り組みの内容》

中学生でも行える活動を設定する。

- ・車椅子、手すりの清掃、新聞の整理など
- ・動きやすい服装、エプロンをかけてお客様にも学生ボランティアとわかるようにする。
- ・施設での活動の注意点を伝え、お客様の生活に影響の無いようにする。
- ・パズルなどレクを一緒に行っていただく。
- ・ティタイムはお客様と一緒に過ごす。
- ・夏祭りなど行事への参加を呼びかける。
- ・夏休みなどの長期休みにも受入れを実施
- ・受け入れについては事前に学校側から予定表を受け取る。
- ・記録のための活動記録カード作成。終了後に記録し提出。

《取り組みの結果と評価》

日によって人数はまちまちであったが、継続した活動を行うことができた。おしぼり、エプロンたたみ、レクリエーションなどお客様と一緒に活動を行っている。中学生と関わることで表情の和らぐお客様がみえた。よそよそしい中学生も、次第に気軽にお客様と話しをする場面がある。お客様から「一緒に遊びたい」という声もあった。予定以外でも学校の帰りに立ち寄る学生もいた。20年度6人であった部員が21年度は15人に増えている。22年度からは土日を活動日とし、学年で3ヶ月毎に来所することとした。

3月には学校と共同でボランティア活動のオリエンテーション用のビデオを作成する。(来訪、掃除、車椅子の清掃方法、ティタイムの準備、後片付け)現在は学校でビデオを観てから来所し、活動を行うようにしている。

今後は意欲のある学生には定期的にお客様と関わるような活動を検討していきたい。

《まとめ》

今後も中学生との交流を深め、学校帰りに気軽に立ち寄れるような施設作りを行う。学生が興味の持てるボランティア活動を展開し介護職とはどういうものか、魅力ある職業であることをアピールしていく。地域福祉に関わることで豊かな社会づくりに貢献していく。

《提案と発信》

中学生を受け入れることで介護という職業を理解し、将来憧れる職業となることを期待したい。また介護職を失業対策にあてこむものとしめない。人の命をつなげていく責任の重い職業であることを伝えていきたい。

【メモ欄】追加資料